

戦後80年 原水爆禁止 2025年世界大会

8月7日(木)～8月9日(土)長崎に青森民医連より8名が参加しました。戦後80年の記念すべき世界大会に参加した全員から感想をいただきました。



原水爆禁止2025年 世界大会(長崎)に参加して

私が最も衝撃を受けた内容は、「核の傘は現実的に有効なのか?」という議論です。分科会のパネリストのように平和を望む有識者たちは、「原爆投下は何一つ軍事的正当性はなく、冷戦の引き金になり、何十万人の人間が亡くなり、その苦しみは未だに尾を引いている。どこかの国があと一回でも核を使用してしまったら、核の冬が訪れ、飢饉となり、世界秩序が崩壊する」という共通見解を持っていました。核兵器不拡散条約(NPT)の議長を務めたラザフスタン代表は、日本について「日本政府は被爆者の人々の気持ちを理解しようとしていないし、政治に活かそうとも思っていない」「アジアにオープンになってくれない?」「原水協の君たちが日本を何とかしてくれ」と言及したそうです。私は日本人としても恥ずかしい気持ちになりました。

原水禁世界大会に参加して

今回、初めて原水禁世界大会に参加させていただきました。大会当日に先立ち、長崎県立美術館を一人で訪れ、そこで開催されていた「長崎8・9平和展」で原爆投下当時に描かれた絵や平和を願う世界の人々の祈りや願いが込められた絵を鑑賞しまし

(健生病院 研修医/下山海太)

た。そこで印象に残ったのは、5歳の娘を原爆で失った母親の、娘のあるはずだった将来に思いをはせる作品でした。



また原爆資料館で、原爆が投下された11時2分を刻み止まった時計や当時の原爆の悲惨さを物語る瓦やガラス瓶、当時の写真などを見学し、その後分科会に参加して、被爆者の方の証言を聞かせていただいたり、現在まで残されている原爆の遺構をいくつか実際に目にしたりしました。

これらの経験を通じ感じたのは、原爆がもたらす悲惨さでした。今被爆者の方の高齢化が進む中で我々にできることは、この悲惨さを次の世代に伝え続け、同じ悲劇が繰り返されないよう訴えることだと感じました。

(健生病院 研修医/村上蘭)

戦争・核兵器の廃絶を 達成するまで訴え続けよう

今年度、長崎の原水爆禁止世界大会に参加させていただきました。今まで教科書で習ってきた内容で知っていたつもりでしたが、実際に現地に入ってみると、自分が何も分かっていなかったと思ひ知らされました。現地には当時の被爆の惨状を伝える数々の遺構が残っており、恐怖と悲惨さ



しんでいるという事です。戦争、核兵器の廃絶は達成するまで訴え続けていかなければならないと、改めて認識させられる貴重な体験となりました。

(青森保健生協 本部組織部/山田亮門)

「どれもこれも燃える、燃える、 かなしみの限りがなかった。」

今回の原水爆禁止世界大会では、原爆のあった現地で様々なことを学びました。特に、長崎原爆資料館では原爆による街の被害、人々への被害といったものを実際の映像や実物をもとに原爆の恐ろしさを肌で感じました。また、原爆による被害は身体面だけでなく、精神的な部分で人々の記憶に爪痕を残すものだと感じました。長崎原爆資料館では、原爆の状況を証言している映像があり、特に「どれもこれも燃える、燃える、かなしみの限りがなかった。」という言葉は、まだ11歳という子どもから出た言葉なのかという驚きがありました。



今回の原水爆禁止世界大会では、原爆がどのように起こり、どのような被害が出たのかを学ぶことが出来ました。現在、被爆者の平均年齢は86歳と高齢になってきており、原爆を経験した世代が少なくなっています。そのため、原爆の悲惨さを後世に伝えていく活動は必要です。後世に語り継いでいく事は原爆を過去のものとせず、風化させないためにも必要だと感じたため、今回の原水爆禁止世界大会に参加できて良かったと思います。

(あおもり協立病院
リハビリテーション科/齋藤大介)

クスノキのみつめる長崎で

豪雨による交通の乱れに翻弄された三日間でしたが、長崎の街並みは坂の多さと異文化の雰囲気印象的で、そこに原爆が落とされたことが信じがたく感じられました。大会を通じて、平和活動は当事者意識や共感から始まると実感しました。

平和は当たり前ではなく、家庭や仕事の幸せも努力の上に成り立っています。自分は戦争を体験していませんが、大切な人が長崎にいたらと想像することで考え方は変わるはず。戦争や核兵器は生活や感情をも破壊してしまします。情報を表面的に受け取るのではなく、現地で歴史や証言に触れることが大切であり、若い世代にこそ参加してほしいと思います。帰宅後は山王神社のクスノキと片足鳥居を思い返し、今を生きる意味を自問しています。



山王神社の片足鳥居

最後に、今後の大会参加者には坂道と蒸し暑さに備えた体力づくりを強く推奨します。参加している間支えてくれた職場や仲間へ感謝です。

(生協ケアプラン・かいこの相談室 所長／瀬川祐介)

貴重な体験ばかりでした

今回3日間、長崎県で原水爆禁止2025年世界大会に参加しました。大会に参加することで、核兵器の実態、また原発がもたらす環境への影響など多くのことを学ぶ機会になりました。

た。そして原爆が落とされた唯一の国として、平和に向かつて核の廃絶を呼びかける運動の大きさや人々の意志の強さに驚きました。



参加した分科会では、原発そして核燃料がもたらす影響について聞きました。午前のプログラムの武本匡弘氏の講演では、原発はどれほど環境への悪影響が起るかを強く訴えており、今日の原発が取り巻く環境の変化に自身も危機感を覚えました。

その後に向かった原爆資料館では、被爆物や被爆者の症状・爆弾の構造やその爆発規模について閲覧することができ、当時その場に起きたことの悲惨さを実感しました。

3日目の特別プログラムであるナガサキデー集会に参加した時は、開催会場である長崎市民体育館が、国内外問わず埋まるほどの人であふれており驚きました。

あまり核兵器や原発についてのことを知らない私にとって、今回参加できたことは貴重な体験ばかりであり、多くの学びを与えてくれました。

(ファルマ弘前薬局／古川碧人)

ナガサキデー集会

「被爆者に寄り添って」

8月8日(金)、長崎市民会館で『被爆・核実験の実相普及、被爆者援護・連帯、核実験被害者の支援』をテーマに分科会が行われ、海外も含め原爆核実験被害の実相、被爆者の思い

や声を9名の講師を迎え改めて学びました。その中でも、原爆被爆者相談員として長く被爆者に寄り添った活動をされてきた、日本被団協原爆被爆者中央相談所の原玲子さんの言葉を紹介します。原さんは協立病院や日赤などにいたこともあり、その頃の被爆者は38万人もいましたが、2025年現在は10万人を切りました。病院で働いていた頃は沢山の人が診断書を書いてほしいと訴えに來たり、病院に來て被爆したことや今までの健康状態を、「初めて話した」と涙を流す方もいたそうです。結婚・出産・就職、どこへ行っても差別されていた当時。人生諦めながら生きてきた人々。被爆者2世3世も障害をもつて生まれてきたり、80年たった今でも苦しむ人がいます。人類が核兵器で自滅しないように、記憶の継承・記憶の保護をし、歴史を繰り返さないよう受け継いでいかなければなりません。



分科会で仲良くなった参加者と

(大野あけぼの薬局／大川梨江)

被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を

人類と地球の未来のために

アメリカ軍が広島と長崎に原子爆弾を投下してから今年で80年目を迎えます。

今年の世界大会は、日本全国の代表の他に海外から2000人を超える参加者があり、核兵器根絶にはやはり日本

だけでなく世界中で考える事に意義があるのだと思いました。

長崎に投下された原子爆弾は一瞬にして多くの尊い命を奪い、すべてを破壊しました。その壮絶な体験を被爆者から直接聞く事ができました。それは想像を絶するような悲惨さでした。また被爆者2世、3世の方々も、差別や貧困などに苦しんでいる事も知りました。被爆者は「世界中の誰にも、二度と同じ経験させない」との強い決意で、苦難とともに生き抜いた自らの体験談を語り続けています。

戦争を知らない世代にも被爆者の声をどう伝えていくべきか：私たちは試

されているような気がします。

ノーマ・ヒロシマ、ノーマ・ナガサキ、ノーマ・ウオ、ノーマ・ヒバクシャ、(ヘルパーステーションはるかせ)

副主任／藤田和美



第46期 第3回評議員会

いのちとケアが大切にされる社会をめざして

8月23日(土)評議員83人、理事88人の出席で第3回評議員会が行われました。今評議員会は戦後80年・被爆80年の年にあたります。全日本民医連 増田剛会長の挨拶より、石破茂首相が13年ぶりに反省を口にしたが加害責任には触れず、歴史修正主義や排外主義の台頭が深刻化していることから、日本は戦争加害の歴史を正確に伝える努力が必要と強調しました。盛岡総会まであと半年間、「ケアの倫理」を力に、平和で公正な社会の実現に向け重大な局面に臨む決意と団結を呼びかけました。

全体討論での発言は56本(文書報告含む)。事業と経営を守り抜き、地域医療の崩壊を食い止める緊急行動についての発言が多くありました。医療機関の倒産が上半期35件と過去最多を上回るペースにあり、全国どこでも経営は深刻で、明日にも倒れるかもしれないという存亡の危機にあります。緊急行動は署名1,000,000筆を目標(青森県連は目標32,200筆)に全国各地で運動の輪が広がっています。青森も呼応し、法人・事業所を拠点に大きなうねりをつくりましょう。(青森民医連 事務局次長／柳谷円)

2025年度

初期・3年目研修

—— 困難事例を通し、基本的人権を守るための取り組みを学ぶ ——

6月24日(火)・6月30日(月) 浪岡中央公民館にて開催し、46名が参加しました。

研修では「①困難事例を通し、基本的人権を守るための取り組みを学ぶ」「②ブックレット『健康格差の原因』よりSDHについて深める」「③日々の業務や生活の中で人権とのかかわりを見つけ、社会保障との結びつきを学ぶ」ことを獲得目標としました。

ブックレットの「健康格差の原因～SDHを知ろう～」の読了と、困難事例の原因・解決方法などのレポートを事前の課題としました。当日はSDHについての講義の後、弘前第一地域包括支援センター小山内さおり氏より地域で起きた事例の報告をしてもらい、その後グループワークで困難事例について話し合い、事前レポートと照らし合わせを行いました。

今年度は地域で起きた困難事例の報告により更に具体的にイメージでき、グループワークでは、困難事例についての原因や解決方法を多くの視点で考えることができた研修となりました。他院所の取り組み方や実践などの意見交換ができる機会となり、民医連職員に大切な視点や自信などを深められたのではないのでしょうか。

(生活介護事業所「花束」管理者／塚本千裕)



2025年度

初期・1年目研修

—— 「民医連綱領」の学習を通して

民医連職員として大切にすることを学ぶ ——

7月29日(火)・7月30日(水) 浪岡中央公民館3階会議室にて開催し、新人職員65名が参加しました。

学習では、事前課題として学習ブックレット「民医連の綱領と歴史」の第1部(綱領編)を読了し、感想文をまとめました。研修当日は、綱領とは何か？民医連の歴史と綱領の成り立ち、無差別・平等の今日的意味等の講義を受けた後、DVDを視聴しました。今回の研修では、青年ジャンボリー委員会によるジャンボリータイムを設け、委員会の説明とアイスブレイクを行い、その後「無差別平等の医療・福祉ってなんだろう？それを実現するためには？」をテーマとして、グループワークを行いました。

青年ジャンボリー委員会活動にある「一人ぼっちの青年をつくらない！」「つながり作り」等の説明は、入職1年目の職員にはとても心強いものになったと思います。今回は大ホールでなく会議室での開催となったのですが、青年ジャンボリー委員会の協力と適度な広さにより、和気あいあいとした雰囲気の中グループワークが進んでいたように感じます。民医連の歴史を知ること、現在行っている活動や理念の根拠を理解し、日々の業務や実践に繋げていきましょう。

(日中サービス支援型共同生活事業所「花の郷」／福土明子)



2025年度

事務職員基礎研修

組織の中で求められる事務職員像を知る

7月23日(水) 青森県総合社会教育センターで開催しました。この研修は入職1年目の事務職員を対象に開催しており、今年度は県連内の5事業所から8名が参加しました。

奥瀬昭彦県連事務委員長より開会挨拶後、アイスブレイクとして事前作成したスライドとともに自己紹介をしました。

第1講座では対馬康文県連事務局次長から情勢について講義いただき、現状を正しく把握することの大切さを学びました。第2講座は生協さくら病院 小山内海事務長より『地域に根差した医療活動』について、事例から民医連としてあり方を講義いただきました。午後からの第3講座では装具を身に付け高齢者の視覚や聴覚の変化、関節の動きの制限などを実際に体験。第4講座は津軽保健生協本部 荒木関匡孝部長から『先輩の経験から学ぶ』をテーマに、経験から得た業務に臨む姿勢や思いなどお話を聞くことができました。

先輩方の講義から学ぶことはもちろんのこと、同じ立場で働く仲間との交流を通してお互いの業務状況や課題を知ることでもでき、横のつながりも感じられた研修になったと思います。

(中央あけぼの薬局 主任／吉田和美)



人権としての社保セミナー

6月9日(月)～6月11日(水)まで熊本県出水市で開催された、全日本民医連人権としての社保セミナーに参加してきました。多職種50名ほどの方々が全国から集まって3日間水俣市のフィールドワークを行い、水俣病に苦しむ方々の話を直に聞くことが出来ました。

「水俣病」と聞くと教科書にでてくる昔に流行った病気という認識程度でしたが、今現在も水俣病に苦しむ方々がたくさんおり、当時の国の杜撰な対応により今も裁判をしていること等を聞いて、当時の政府の対応にとっても憤りを感じました。

水俣病にかかった人々は手の震えや歩行時のふらつき、言語障害等様々な症状に今も苦しんでいます。さらに当時の人々だけでなく、生まれてきた子供や当時症状がなかった人が30～40代になり発症するケース等、当時の問題だけでなく未来まで問題が続いてしまっています。

原発再稼働や三沢のPFAS問題においても、水俣病の時と同じように健康よりも経済や外交を優先し、そこに住む国民をないがしろにしてしまうことがまた起きてしまうかもしれないと考えられます。そうならないように「知らない、無関心」ではなく、一人一人が関心を持ち、世論の力をもって環境問題に取り組むべきと感じました。

(健生クリニック 診療事務課 主任補佐/天内良)



水俣病原点の地と呼ばれる百間排水口



水俣湾埋立地にある慰霊碑

第17回

大間原発反対

現地集会

7月27日(日) 青森県大間町で開催された「大間原発反対現地集会」に参加しました。この集会は原発敷地に隣接した「大間原発に反対する地主の会」の土地で行われ、多くの反対派の参加者とスピーチがあり、その後にパレードがありました。反核ロックフェス「大MAGROCK」は集会の前日から開催され、音楽とともに反対の声を上げる場に。集会当日にはロックバンドの演奏やスピーチも行われました。

住職の中嶋哲演さんや行政経験者・諸団体代表など、地元住民や全国から駆けつけた活動家らが登壇して訴えを行い、集会後は会場入口へ大間町役場・商店街・フェリー埠頭まで、「大間原発反対!」「命を守ろう!」といったシュプレヒコールを唱えながら進むパレードに参加しました。

北海道・宮城など多くの地域から支援者が参加し、参加者同士の連帯感が強く、地元住民と全国の原発運動家とが協力する姿に感銘を受けました。

(黒石薬局/成田創)



青森県社会保障推進協議会

第28回定期総会

2025年8月23日(土) 青森県観光物産館アスパム5階にて約50名の参加で行いました。

総会に先立ち、『「自助・互助・共助」と社会保障推進運動』～当たり前のフレーズは罠か?～久保佐世氏(佛教大非常勤講師)の記念講演がありました。「新自由主義改革によって、経済の自由化が進んだかもしれない。しかしその裏では、国民の生活の豊かさ・健康への意識・健康を保持するための制度や社会の土台が揺らいでいる。医療や福祉は、経済の効率化のために削減してよいものではない。むしろ、豊かな社会を支えるために不可欠な要素である。新自由主義改革は、日本経済の自由化を促進する一方で、国民の生活に悪循環をもたらした。今後、誰もが安心して暮らせる社会を実現するために、制度の見直しとともに、私たち一人ひとりが現在の生活や政策に対する考えを見つめ直していくことが必要である」との講演がありました。

続いて定期総会が行われ、総会及び方針案の提案、決算・予算報告がありました。各地域社協からもそれぞれの取り組み報告を受け、地域での様々な活動を共有することができました。2024年度の自治体キャラバンにおいては、県内40市町村で学校給食費が原則無償となったこと、0歳から高校卒業年次までのこどもの医療費の原則無償化を勝ち取ったこと、県内の補聴器購入補助についても前進していることが報告されました。その後、採択が行われ全ての議案が採択されました。

国民のいのちと暮らしを守ることに団結し、憲法を守り、生かす社会を目指しつつ、住民とともに社会保障充実を求め、連帯して運動をすすめていくことを確認しました。

(青森民医連 事務局次長/對馬康文)



7月5日(土) 社会教育センターにて、79名の参加で開催することができました。

まず初めに、弘前市第一地域包括支援センターの堀川恵所長から、「地域から求められる民医連看護士事例からの学びを職業的成長へ」ということで講演をしていただきました。地域包括支援センターの仕事を紹介する中で、病院と地域の違いや地域で暮らす高齢者の現状など実際の事例も交えて、民医連看護の視点を持ちながら、地域で暮らす高齢者を生き生きと支えている状況が伝わる講演でした。

その後、16名の症例発表会を3分科会に分かれて行いました。それぞれ青森民医連に入職し、知識や技術を身につけながら卒後2年間の看護実践の締めくくりとして、患者さんから学んだ看護を発表していただきました。発表することで他病院の取り組みを知り、また意見交換することで交流ができ、民医連職員としての連帯を強められたのではないかと思います。



今後いろいろな患者と出会い、看護実践していきながら多くのことを学び、さらに民医連看護師として成長していくことを期待します。

(あおもり協立病院 総看護長／八木橋明子)



2025年度

県連1年目 薬剤師研修

7月5日(土) ファルマ弘前薬局会議室にて開催しました。今年入職した6名の薬剤師を対象に、「民医連の薬剤師として薬剤とどう向き合うか」をタイトルに講義が行われました。休憩後、事前にアンケートを記入してもらった内容に沿って、入職してからの3か月を振り返りました。



講義では、民医連薬剤師は単に薬を調剤して患者さんへお渡しするだけでなく、はたして薬が安全であるかを常に考える必要があることを学びました。患者さんからの副作用の聞き取りを行い、論文を読むなどし、薬の情報をアップデートする必要があります。過去の薬害、製薬会社の不祥事例を学び、薬は常にリスクを伴うことを念頭に、日々の業務を行ってほしいことがメッセージとして送られました。

振り返り研修では、「①自身の誇れること」「②業務を通じて失敗だったと感じていること・困っていること」「③これから取り組んでいきたいこと」の3点について事前に記入してもらいました。6人がみな、日々の業務を前向きに行っていることが分かりました。

昨今、入職後にすぐ退職してしまうケースがある中、辞めなくなった薬剤師がいなかったこと、先輩薬剤師がやさしく指導してくれると話していたことを聞いて、ほっとしました。

今回の研修は、民医連薬剤師としての役割を理解し、患者さんのためにできることを自分なりに考える良い機会になったことと思います。また、入職してからの自分を見つめなおすことで、課題や今後の目標が見えたようです。民医連のこれからを担う薬剤師として、日々の業務に励んでもらえることを大いに期待します。



(健生病院 薬局 主任補佐／赤平祐一)

在宅看護研修会

青森県民医連 第57期

7月12日(土) 浪岡中央公民館にて、「特定行為看護師としての活動」を講演テーマに、診療所や訪問看護ステーションから27名が参加し研修会を開催しました。

特定行為研修終了後、在宅分野で活動されている、ほくむおんナースステーションの雪田昇一氏と若松歩氏を講師に招き、「在宅での特定行為研修修了者の活動と課題」「身近にある看護師特定行為、自分の中で変化したことと病院での実際」について講演して頂きました。特定行為とは何か、研修内容や苦労した点、在宅患者さんのメリットなど実例をもとにお話を聞きました。講演後は講師の方もグループワークに参加しディスカッション。高齢者における終末期の点滴中止のアセスメント、報告の仕方は良い最期を迎えられるか重要なことだと思いました。手順書を使いやすくしたり、医師との共通理解が進んでいけば、活躍の場が広がるのではないかと感じました。



若松歩氏



雪田昇一氏



(中部クリニック 看護長／須藤千夏)

2025年度
夏の高校生
医師体験

もっと医療の 現場を学びたい!!

7月23日（水）八戸生協診療所、7月25日（金）・8月20日（水）あおもり協立病院、7月29日（火）健生病院にて高校生医師体験を計4回開催し、医師を目指す30名の高校生が参加しました。

八戸生協診療所では、宮澤千裕医師の講演『より良い医療者を目指して』、BPSモデル^(※)を考えるディスカッションや交流、心電図・エコー体験等を行いました。あおもり協立病院では、相馬裕医師の院長挨拶、研修医の『多職種連携の重要性やエピソード紹介』



BPSモデルを考えるディスカッションの様子(右が講師の宮澤医師)

と交流、放射線科・検査科・薬局・用度管理の見学を行いました。健生病院では、伊藤真弘医師の講演『生きるための緩和ケア』、研修医と聴診器体験や交流を行い、病院見学は伊藤医師が参加者の要望を聞きながら案内しました。

医師から激励の応援を受け、参加者からは「医師になる為には学力は勿論、人間性も大切だと知れた」「総合診療について詳しく知れて魅力があると思った」「医療機器の体験がとても勉強になったので、また参加したい」「将来自分がどんな医師になりたいか考えることができた」などの感想がありました。今後も継続して開催していきます。

※BPS（Bio-Psycho-Social model）モデル：
病気を生物学的側面だけでなく、心理的・社会的な側面も考慮して包括的に捉えるモデルのこと。

（青森民医連／津川なつみ）



心電図を体験する様子

2025年度
夏の高校生
看護体験

看護の仕事の間近で見学・体験！ 高校生が病院で夏の看護体験

7月30日（水）あおもり協立病院、7月31日（木）生協さくら病院にて高校生看護体験を実施し、市内の高校から初参加・リピーター含め24名が参加しました。病棟体験では患者さんと話をしたり、手浴・足浴をしたりして看護師の仕事の一部を体験しました。全体学習では参加者同士脈拍や血圧測定をしたほか、点滴ルートや注射器で薬液を吸いあげたり、自身の手洗いをチェックしたりアッという間に時間が過ぎていきました。



青森エリアの様子

「いろいろな体験できて良かった」

「看護師になりたいと改めて思った」など感想が聞かれました。

健生病院では7月30日（水）に高校生を対象にした看護体験が行われ、近隣の高校を含め午前と午後合わせて40名が参加しました。院内見学や一次救命処置体験、新人看護師の体験談発表を通して、看護学校の選び方、看護学生の生活、そして看護の仕事を学びました。生徒からは「改めて看護師になりたいと思いました」「普段見ることのできない手術の様子なども見学でき、より看護の道に進むために頑張りたい」といった声が聞かれました。

今後も地域の高校生が医療現場にふれる貴重な機会として、継続開催できればと思います。

（看護学生小委員会／長牛真理・阿保祥子）



弘前エリアの様子

2025年度
夏の高校生
薬剤師体験

薬剤師の仕事を見学・体験し 理解を深める機会に!!

7月24日（木）・31日（木）八戸、7月26日（土）五所川原、8月2日（土）弘前、8月30日（土）青森の4会場にて開催し、計16名の高校生が参加しました。

各会場とも薬局活動を紹介した後、薬剤師が実際に働いている現場で見学、模擬体験を行いました。病院薬局では院内処方での払い出しや病棟業務について説明を行い、ミキシング体験（輸液、注射剤等の混合業務）などを行いました。保険薬局では処方箋の受付から投薬までの流れについて説明を行い、軟膏混合・散剤分包などの体験



を行いました。各会場で高校生からの質問に薬剤師が答える時間を設け、やりがいや責任等について理解を深める機会となりました。

青森県は人口比に占める薬剤師数が下位であることや、薬科大学のカリキュラムや国家試験について、在学期間中の学費や奨学金制度などについて説明し、薬剤師を取り巻く情勢や薬剤師になるまでの過程について学ぶ機会となりました。

参加した高校生からは、「薬剤師の仕事内容やスケジュールを聞いて参考になった」「薬剤師にしか果たせない役割も沢山あることを知り職業観が広がった」「業務だけでなく、地域と連携した活動や薬剤師の理念についても学べてよかった」などの感想を頂きました。今後も薬剤師の魅力が伝わる体験会を継続していきたいと思います。

（青森民医連／端村由貴人）



「ケアの倫理」Café交流集会

7月9日（水）オンラインにて開催されました。各地での「ケアの倫理」Caféの実践を交流し、各県連・事業所・職場での取り組みに生かす事を目的に、全国から約300人が参加しました。



全体会では全日本民医連職員育成部 西村峰子次長より、「ケアの倫理」Café前半の取り組みについて6月までの学習会累計や参加者延べ人数、学び語り合ってきた「声」についての報告がありました。

次に各県連（青森、群馬、山梨、山口、兵庫）から実践報告がありました。

青森の取り組みとして、各法人の学習推進、集約担当者を決め毎月届く教材で月1回以上のCaféを企画、出された意見等集約し県連に報告。そして各法人より寄せられた感想や学習風景の写真等を掲載しニュースを発行。また昨年の中期研修より長久啓太氏を講師にケアの倫理について学習し今年も予定している事等、佐々木良範県連教育委員長より報告がありました。全体会の後は各地協での分散会となり、短い時間でしたが全体会の感想や各々の取り組みについて報告し交流しました。

ケアは誰もが必要とするもの、ケアする人にもケアが必要な事、そして生活や仕事だけではなく人権や世界平和にまで及び、多種多様で認め合うことが大切だと学びました。ケア労働についてはもっと社会に評価してほしい、社会全体で担えるように、ケアが大切にされる社会になるよう働きかけが必要だと思いました。今回の交流集会やCaféでの学びを元に、これからまだ続く「ケアの倫理」を更に深めていきたいと思いました。（介護付有料老人ホーム生協たむかひの家 主任／関川陵子）



当企画では医師や看護師、薬剤師や放射線技師など医療現場に欠かせない職種を体験できるプログラムを用意され、参加した子どもたちは真剣な表情で聴診器体験やレントゲン体験、エコー体験など様々な体験に取り組みました。その中でも特に人々を集めたのは採

開催

こどもメディカルツアー

7月26日（土）中部クリニックにて小学生対象の職業体験企画「こどもメディカルツアー」を開催しました。当日は、コロナ禍後の開催では過去最多となる18人の子どもたちが参加しました。



血体験と薬剤師体験です。採血体験では専用の模型を使い、本物さながらの感覚を楽しみ子供たちの姿が見られました。薬剤師体験では薬が患者に届くまでの流れを学び、調剤の疑似体験を通じてその重要性を理解しました。

参加した子どもたちからは「お薬がどうやって患者に届くのか分かった」「採血体験が本当に血を採っているようで楽しかった」「次は受付もやってみたい」などの感想をいただきました。子どもたちの医療に対する関心を深め、将来の夢につながる貴重な機会となりました。

（中部クリニック 医事課／鳴海騎士士）

あなたと民医連をつなぐ月刊誌

いつでも元気

2025 10月号 380円

好評発売中

歴史の岐路で

けんこう教室 認知症が気になるあなたへ(下)

夢をかなえる分身ロボット

世界に医師を派遣 キューバ

まちなか 宮城県南三陸町

食と健康 楽しく食べよう糖尿病



発行＝徳保健医療研究所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター8階 電話 03(5842)5656 FAX 03(5842)5657

県連事務局人事往来

9月1日付で医局医学生課に配属となりました。私にとって2度目の青森民医連への出向となります。新しい業務に携わるので、先輩方を見習って一日でも早く貢献できるよう努めます。よろしくお願いいたします。



着任

高橋理香子

（津軽保健生協

⇒弘前事務所）9/1付

うちのメゴっこ

vol. 86

♥ name

べろりくん
オス

♥ age

4歳



我が家のアイドル犬

うちにはわんこのメゴっこがいます。パグの「べろり」といいます。

食べることが大好きで、常に食べ物を狙っています。見てもいないのに、自分が貰えるリンゴを剥く音や納豆のフタを開けただけで目からんらんと輝きます。

家の周りの散歩は好きではありませんが、家族やお友達とのお出掛けではるるんでどこまでも歩きます。

べろりは、私につき合って県内外にお出掛けします。ドッグフェスやキャンプ、SUP(*)をして湖を泳いだり、フェリーに乗って北海道に行ったり。全国のパグが集うパグフェスでは山梨県に上陸したたくさんのパグと集いました。今年は職場でいぬ部サークルに参加し、みんなで一緒にお散歩をして交流しています。

ぐっすり寝たイビキの音やへそ天のお腹、ごはんを食べる時のキラキラの目を見ると幸せな気持ちになります。いぬの教室の先生方や犬友さん、近所の方など今まで話す機会のなかった人達との出会いもくれました。たくさんの楽しみが増えました。

彼の意見を推測しながら、嫌われないようにこれからも遊んでもらおうと思います。とりあえずドッグマラソンに出たいです。常に笑いをくれるべろりに感謝です。(健生五所川原診療所 通所リハビリテーション主任/工藤瑞子)

*SUP:「Stand Up Paddleboard (スタンドアップパドルボード)」の略称。ボードの上に立ってパドルを漕ぎ、水面を進むウォータースポーツ。



私の三つ星★★★★

オススメ

(株)フナバヤシ



十和田市西三番町にある「フナバヤシ」を紹介します。一見、お店の外観を見ると入口が奥まっているためわかりにくいのですが、鶏肉やたまご・総菜を販売しているお店になります。総菜の種類は、鶏の丸焼きや手羽先・手羽元・鶏胸肉照り焼きなど鶏肉をメインに取り扱っています。

人気なのは「鶏の丸焼き」で、秘伝の味付けで他にはない唯一無二の味です。見た目は某外資系スーパーの〇ストコのロティ〇リーチキンと同じです。夕方には売り切れてしまうので、予約した方が確実に購入できます。

私のお勧めは「鶏唐揚げウイング」で、衣がカリッと中はジューシーでご飯のおかずにも合いますが、ビールと一緒に食べるのが最高に美味しいです。冷凍の状態でも売られているので、自宅で揚げ物をする方であればそちらもお勧めします。日曜日が定休日、営業時間は8:00~18:00までとなっています。気になった方は是非、立ち寄ってみてください。(TEL 0176-23-4225)

(居宅介護支援事業所野いちご 主任/工藤隆)



9月 2025年9月 第57期第17回理事会報告

- >> 1. 会長あいさつ
- >> 2. 全日本民医連理事会報告関係
- >> 3. 人事
- >> 4. 決裁・承認事項
 - (1) 県連・地協・全日本関係
 - ① 県連ホームページリニューアル
 - ② 教育委員会 2025 年度職場管理者・職場管理補佐研修 参加費用
 - ③ 北海道・東北地協 2025 業学生のつどい in 北海道 参加費用
 - (2) 各種委員会から
- >> 5. 協議事項
 - (1) 地域の医師不足解消を求める請願書
 - (2) 9.25 のちまもる総行動
 - (3) 地域医療を守れ 闘争本部設置と行動提起
 - (4) 地域医療を守れ 署名到達と各法人の取り組み
 - (5) 第3回評議員会意見集約と学習会
 - (6) 2025 年共同組織拡大強化月間について
 - (7) 全国ジャンボリー参加者
- >> 6. 医師・医学生関連
- >> 7. 報告事項
 - (1) 全日本民医連通達・声明、地協関係
 - (2) 地協
 - (3) 県連・共関係
- >> 8. 各法人・事業所から
 - ① 認知症看護認定看護師支援継続のお願い